

## 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	群馬大学
連携大学名	なし
事業名	群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー

### ① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	1. 学部教育改革:暮らしを見据えた1~4年次の積み上げ方式の教育プログラムに改革し、在宅ケアマインドを有する看護職を輩出する。 2. 大学院博士前期課程【地域完結型看護リーダー養成コース】の新設:在宅ケアマインドを持った看護職リーダー人材を養成し輩出する。 3. 履修証明プログラム【地域完結型看護実践指導者養成プログラム】の新設:地域の課題を理解し、問題解決できる看護実践指導者(実習指導及び看護師への指導)を輩出する。 4. 上記1~3の事業を達成することにより、本学教員、他大学、行政、職能団体、介護福祉施設の看護職員が地域ネットワークを形成し、医療施設と在宅・地域をつないだ、切れ目のない看護支援提供の実現を目指す。 5. 本学と群馬大学医学部附属病院との人事交流のシステムを構築する。

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会(2回)の開催</li> <li>看護学生(4年生)を対象とした在宅マインドに関する調査実施</li> <li>看護師を対象とした在宅マインドに関する調査実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修証明プログラムの開設・履修者募集(10名)</li> <li>講演会の開催(2回)</li> <li>看護学生を対象とした調査(4年生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院博士前期課程地域完結型看護リーダーコースの開設・履修者募集(3名)</li> <li>履修証明プログラムの履修者募集(10名)</li> <li>講演会の開催(2回)</li> <li>看護学生(4年生)を対象とした調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院博士前期課程地域完結型看護リーダーコースの履修者募集(3名)</li> <li>履修証明プログラムの履修者募集(10名)</li> <li>看護学生(4年生)を対象とした調査</li> <li>講演会の開催(2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院博士前期課程地域完結型看護リーダーコースの履修者募集(3名)</li> <li>履修証明プログラムの履修者募集(10名)</li> <li>看護学生(4年生)を対象とした調査</li> <li>看護師を対象とした調査</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅看護・医療推進検討委員会の設置</li> <li>学外関係者を含めた会議の開催</li> <li>ホームページ開設</li> <li>Web会議システムの導入準備</li> <li>人事交流規定の作成</li> <li>履修証明プログラムの作成</li> <li>学部教育改革の検討</li> <li>地域関係機関への訪問</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部教育改革の開始</li> <li>大学院コースのプログラム検討・作成</li> <li>Web会議システムの運用開始・活用</li> <li>本学と関連機関における人事交流の検討</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学と関連機関における人事交流の検討</li> <li>本事業の中間評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学と関連機関における人事交流の検討</li> <li>評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学と関連機関における人事交流の検討</li> <li>本事業成果報告書の発行</li> <li>学部教育改革の成果判定・評価</li> <li>学生、病院看護師の在宅ケアマインドに関する調査・評価</li> <li>学会成果発表、学会誌投稿</li> <li>本事業内外評価委員会の開催</li> <li>次年度以降の検討</li> </ul>

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会(12月・3月の2回)の開催</li> <li>看護学生を対象とした在宅マインドに関する調査実施(11月)</li> <li>看護師を対象とした在宅マインドに関する調査実施(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修証明プログラムの開設・受入れ(10名)</li> <li>講演会の開催(2回)</li> <li>看護学生を対象とした調査(4年生)</li> <li>本学と関連機関における人事交流(各1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院博士前期課程地域完結型看護リーダーコースの受入れ(3名)</li> <li>履修証明プログラムの受入れ(10名)</li> <li>講演会の開催(2回)</li> <li>看護学生(4年生)を対象とした調査</li> <li>本学と関連機関における人事交流(各1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院博士前期課程地域完結型看護リーダーコースの受入れ(3名)</li> <li>履修証明プログラムの受入れ(10名)</li> <li>講演会の開催(2回)</li> <li>看護学生(4年生)を対象とした調査</li> <li>地域関連機関又は附属病院との人事交流(各1名)</li> </ul>	
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅看護・医療推進検討委員会の設置(9月)</li> <li>学外関係者を含めた会議の開催(9月)</li> <li>ホームページ開設(11月)</li> <li>Web会議システムの導入準備(10月～3月)</li> <li>人事交流のための推進委員会の開催と規定の作成(1月)</li> <li>履修証明プログラムの作成(1月)</li> <li>学部教育改革の検討(10月-1月)</li> <li>地域関係機関への訪問(県医師会、大学、病院他)</li> <li>事業評価と次年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部教育改革の開始(1年次より)</li> <li>履修証明プログラムの開始</li> <li>大学院コースの検討</li> <li>Web会議システムの運用開始・活用</li> <li>学生、看護職者の調査分析・結果公表</li> <li>事業評価と次年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院コースの開設</li> <li>Web会議システムの運用・活用</li> <li>本学と関連機関における人事交流の検討</li> <li>本事業の中間評価委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本学と関連機関における人事交流の評価と次年度の検討</li> <li>事業評価と次年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生、看護職者の調査分析・結果公表</li> <li>本事業評価と次年度事業継続の検討</li> </ul>
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生・看護師を対象とした調査票の回収(1月)</li> <li>学生(3大学221人)</li> <li>看護職(11病院2136人)</li> <li>講演会の参加者 1回目(108名) 2回目(3/11予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修証明プログラムの開設・履修者入学(10名)</li> <li>附属病院との人事交流(各1名)</li> <li>講演会参加者(100名以上)</li> <li>本事業に関する論文発表(1編以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修証明プログラム修了者(10名)</li> <li>附属病院との人事交流(各1名)</li> <li>講演会参加者(100名以上)</li> <li>本事業に関する論文発表(1編以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修証明プログラム修了者(10名)</li> <li>大学院前期課程地域完結型看護リーダーコース修了者(3名)</li> <li>講演会参加者(100名以上)</li> <li>本事業に関する論文発表(1編以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修証明プログラム修了者(10名)</li> <li>大学院前期課程地域完結型看護リーダーコース修了者(3名)</li> <li>地域関連機関又は附属病院との人事交流(各1名)</li> <li>講演会参加者(100名以上)</li> <li>看護学生・看護師を対象とした調査学生(3大学)・看護職(11病院)</li> <li>本事業に関する論文発表(1編以上)</li> <li>本事業内外部評価委員会の開催(1回以上)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生、看護職者の在宅看護や在宅マインドに関する実態把握</li> <li>アンケート調査による看護学生、看護職者の在宅看護や在宅マインドへの関心・理解の深まり</li> <li>本事業運営組織による、県内関連機関・施設間の連携・ネットワークの基盤形成</li> <li>ホームページ開設による本事業の社会的発信</li> <li>人事交流のための基盤環境づくり</li> <li>事業評価と次年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生、大学院生、看護職者の在宅看護や在宅マインドの関心・理解の深まり</li> <li>在宅マインドを持った看護教育プログラムの国内外の大学への発信</li> <li>運営組織の県内関連機関・施設間の連携・ネットワーク形成並びにWeb会議システムの活用</li> <li>事業評価と次年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生、大学院生、看護職者の在宅看護や在宅マインドの関心・理解の深まり</li> <li>人事交流によるキャリアパスの形成</li> <li>在宅マインドを持った看護教育プログラムの国内外の大学への発信</li> <li>地域リーダー、教育・研究人材の輩出及び地域での波及活動</li> <li>地域関連機関の連携強化、ネットワーク形成</li> <li>本事業の中間評価委員会の開催及び事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生、大学院生、看護職者の在宅看護や在宅マインドの醸成</li> <li>人事交流によるキャリアパスの形成</li> <li>在宅マインドを持った看護教育プログラムの国内外の大学への発信</li> <li>地域リーダー、教育・研究人材の輩出及び本事業の地域への波及</li> <li>地域関連機関の連携強化、ネットワーク構築</li> <li>事業評価と次年度事業の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生、大学院生、看護職者の在宅看護や在宅マインドの醸成</li> <li>人事交流によるキャリアパスの確立</li> <li>在宅マインドを持った看護教育プログラムの国内外の大学への発信</li> <li>地域リーダー、教育・研究人材の輩出及び本事業の地域への波及効果</li> <li>地域関連機関の連携強化、ネットワーク構築</li> <li>本事業の総括と事業継続の検討</li> </ul>

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	PDCAサイクルによる工程管理に基づき、早期に学部教育改革を行い、続いて大学院においては、履修証明プログラムと大学院コースを開設し、大学院生を受け入れ、在宅マインドを持つ看護職者の一貫した体系的な教育を行う。 履修生のキャリアパス形成につながる取り組みや体制として、 ①働きやすさと学びやすさの両立を図るため、履修証明プログラムで取得した単位は、大学院入学時には、科目等履修制度を活用し、既修得単位として認定する修業システムを工夫する。 ②大学院既修了者が地域でのリーダーとしての資格と自信を持つとともに、教育研究者としての実績につなげる。 ③大学教員と病院・施設看護職者の人事的交流を図り、継続的に教育・研究の実践を構築する。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	本事業は、保健学研究科長を責任者とし、既存の研究・教育センターの中の高度実践者養成推進室に、在宅看護・医療推進検討委員会を新設し、企画・運営に当たる。本委員会は、看護学講座の教授と県内外の関係者で構成し、看護学講座の教員全員がそのワーキングメンバーとして部門別に活動する組織体制を構築する。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	事業終了後の履修証明プログラムは、受講生から受講料を徴収することで継続を図る。情報発信については、県内の説明会・講演会や国内外の学会等で公表する。また事業終盤にかけては、本事業に関する成果のまとめを発行し、国内関係機関に配布することを予定している。これらの内容は、随時、ホームページ等で情報発信を行い、教育プログラムの成果について継続的な情報提供を図る。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
履修証明プログラムの受入れ人数は、推定対象者の何%くらいを占めるのか。実現可能な最大数を設定することが望ましい。	本事業における履修証明プログラムの受入れ人数(10名/年度)については、看護職が地域での暮らしをよりよく理解できるよう、地域性を考慮し、群馬県下を4ブロック(西毛、中毛、北毛、東毛)に分けて、各地域から病院看護師と地域(訪問)看護師とのペアでの履修証明プログラム受講を推奨し、受講生が地域の特性を生かし主体的に学べるよう演習やグループワーク等を取り入れた教育内容を提供するため、最大限受入れ可能人数を設定する。
学部教育の視点はよいが、2年次で看取(みと)りの看護実践能力を養うというプログラムは現実的ではない。	本事業における「学部教育改革」では、全ての看護学科目を総点検し、在宅視点のマインドを持った授業となるよう強化した。例えば、1年次の基礎看護学領域では、従来の「基本的な生活援助技術」の習得に加えて、療養者の在宅での生活背景を理解するとともに、ターミナルケアを含めた在宅における食事や排せつ、体位交換、安寧・安楽方法等の基本的な看護技術についても実践できるよう教育内容をカリキュラムに位置づけ、学生のレディネスを考慮した無理のない段階的な実践能力の習得が図れるよう工夫する。
生活援助と看取(みと)りの看護実践を同様に並べていることには学生のレディネスを考慮すると違和感を覚える。	上記と同様に、本事業における「学部教育改革」では、全ての看護学科目を総点検し、在宅視点のマインドを持った授業となるよう強化した。例えば、1年次の基礎看護学領域では、従来の「基本的な生活援助技術」の習得に加えて、療養者の在宅での生活背景を理解するとともに、ターミナルケアを含めた在宅における食事や排せつ、体位交換、安寧・安楽方法等の基本的な看護技術についても実践できるよう教育内容をカリキュラムに位置づけ、学生のレディネスを考慮した無理のない段階的な実践能力の習得が図れるよう工夫する。
基礎教育には地域からの参画はなく、他の2つのプログラムでも教育を担うのは主に大学と病院であり、地域からはゲスト講師の扱いである。これは地域の人材が教育に参画し、学び合うプログラムとはいえない。確実にFDを位置づけながら地域が参画するシステム構築の必要があるのではないか。大学と大学病院の臨床教授中心の講師陣だけではなく人材交流のプログラムの構築、学び合いのプログラムの構築という視点も欲しかった。	本学では、ゲスト講師(学歴問わず経験や実績を重視)という制度を導入し、地域人材が有効的に本学の講義に参画している実績がある。地域の優秀な人材に、本事業においても講義や授業に多数参画してもらえるように推進する。さらに、人材交流を進め、大学と臨床の相互の学び合いのできる環境整備に努める。

<p>また、履修証明プログラムも指導者養成という意味合いからであろうが、大学院のカリキュラムがベースとなっている。これは現任者には若干ハードルが高いのではないかという懸念が残る。</p>	<p>本学大学院は、「看護学」と「生体情報検査科学」と「リハビリテーション学」の3領域が、横断的に保健学の各分野を包括的に履修できるカリキュラムとして、ユニット制を導入し成果をあげている。さらに、受講生が他分野の教育内容も受講しやすいようプログラムの内容を工夫する。</p>
<p>地域と在宅をつなぐ看護師リーダーの養成という視点は非常に重要であるため、以前十分とは言えない病院の退院支援機能充実が明確に位置づけられていないのは気になる点である。附属病院看護師における大学院入学への誘導をはかっていると思われるが、この誘導した結果、増加すると思われる修了生が、その後果たすべき役割や実施できることなど内容が具体化されていない。</p>	<p>退院支援・退院調整・退院指導に関する教育内容は、現行カリキュラムにおいて、既に在宅看護学や老年看護学に含まれ実施しているところであるが、さらに、これらの内容を学部と大学院で切れ目なく、一貫性を持って内容の充実強化を図る。さらに、履修証明プログラムを受講した看護師を大学院入学へと、更に誘導を図ることで、課題解決、高度医療の知識・技術、学際的教育による他職種連携、研究面での能力向上につなげていこうカリキュラムの工夫に努め、地域で活躍できるリーダーとして、「地域完結型看護」を推進・サポートできる人材を養成・輩出する。</p>